

第1回 教員採用試験対策学習会

1. 主催 千葉県教職員組合印旛支部
2. 日時 2018年5月1日（火） 18:00～
3. 場所 印旛教育会館大ホール
4. 講師 四街道市立四街道西中学校長 安西 啓雄 先生
印旛地区中学校校長会会長

5. 講演内容

(1) はじめに ～本当に信頼される教師をめざすのか?～

- ・働きすぎの先生方をどうやって押さえて家庭やプライベートに向けさせるか。
- ・「ブラック」と称されるイメージを払拭したいと考えている。

○こんな広告を考えてみました（レジュメ参照）

- ・勤務時間7時間45分の背景…民間の給与が上がってくる中、財政が苦しかったところで勤務時間を8時間から7時間45分へと削減した。（私見）
- ・紙面上では魅力的な勤務時間であるが、実際には確保される時間ではない。
- ・管理職が早い退勤を促す。→「時短ハラスメント」となりうることも。
- ・時間外勤務が当たり前になっている。→管理職としてはとても心苦しいこと。
- ・この仕事だけ1本に打ち込まなくてよい。→早く帰って自分の時間を大切にしてほしい。
- ・クレーム対応（保護者対応）は、昔の非ではない。…本当に大変になっている。
- ・思いや言葉の通じづらい子どもの対応。…その保護者がクレームを言ってきたら、どうするか。

○それでも、本当にこの仕事をしますか？

- ・どう思うか、どう判断するかは本人次第。
- ・しかし、現状としてなり手が少なくなっている（理科や英語など民間で好きな分野の研究を続けたり、得意を生かしたりすることができる）。
- ・「教育には100年の計がある。」

○誰にでも向いている仕事ではない。

- ・自分が本当に「なりたい」と思える仕事なのか。

(2) 千葉県が求める人材（レジュメ参照）

- ・どこか一か所でも自分に当てはまるころがあればいい。特に5番目の項目は大切。
- ・現在、もっとも大きな問題は不祥事。→数人の影響で、世間から全職員がそうだと思われる。

絶対のキーワード…①高い倫理観

- ・保護者が見ている、子どもがみている…ではない。
- ・人を教える立場として襟を正す。
- ・常に求められている。

○コミュニケーション能力

- ・これがないと、この仕事はつらい。
- ・若い職員の大きな悩みは「保護者対応」（クレームではない）。→コミュニケーション能力に欠けている。
- ・いまの現場で、保護者への連絡に不安を覚えるようであれば厳しい。
- ・大事なことは何か。子供の安全・安心のためにすぐに判断・行動できるとよい。
- ・ないなら、今から「鍛える」しかない→職場の先生方とどんどん話をする。
- ・保護者と話すことがない、なんてことがあるのか。
- ・話してみれば盛り上がる、こちらから避けてはいけない。…信頼関係はここから。
- ・話すべきことがない先生でよいのか。

(3) 教師の現状とは

○学校のみドルリーダー（主任層）の育成が急務である。

- ・昨年4月、7年ぶりに中学校の現場に戻ってきたが、先生方が育っていない。
- ・採用が少なかった、当時「優秀だ」と言われた世代が育っていない。
- ・指導してくれる先輩は近くにいるだろうか。
- ・いまの現場で十分に力をためて、情熱をもってこの仕事をしてほしい。

○生徒の目をみて話すことができない先生が多い。

- ・授業中、本当に生徒一人ひとりと目を合わせているか。
- ・机間指導を本当にしっかり行っているか。本当に見ているか。

○止まって話す。

- ・授業中うろうろして話していないか。→子どもが集中できない要因となりうる。

- ・間が持たないのでは…。子どもに考えさせたいと思っているか。
- ・自分の授業の様子を録画して見ると、とても勉強になる、ぜひやってみるとよい。
- ・発問を繰り返していないか。本当に指導が必要な生徒へ指導できているか。
- ・ふらふら動いていないか。
- ・自分の授業の様子を録画して見ると、自分の授業を俯瞰できるようになる。また、指導主事に100回教わるより価値がある。

(4) 教員採用の状況 ～大量採用時代とは言うけれど～

○合格がゴールではない。

- ・合格してからの人生をどうしていくか。
- ・自分を見つめなおせる教員であってほしい。

(5) 講師の利点とは

- ・講師の先生方は有利な立場である。→仕事から学びうること、現場の校長先生から推薦を受けられる。
- ・仕事を一生懸命にするあまり、勉強がおろそかにならないように。
- ・はやく現場で一緒に働けるようにがんばってほしい。

(6) 千葉県学校教育の課題を知る→キーワードを押さえる

①新みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン

○ふれる、かかわる、そしてつながる

- ・どんなことに「ふれる」？
…豊かな自然にふれる、地域の人とあいさつを交わす、新たな知識を得る。
- ・模範解答ではなく、自分の言葉で答えをもってほしい。
- ・決まりきったことを答えるのは教師の力ではない。オリジナリティが求められる。
- ・例えば、採用選考の時、クールビズで来てくださいと言われたのにネクタイ・スーツを着ていく人は…指示に背く（ルールを守らない）、周りを不安にさせる。

(7) 学校教育指導の指針

○千葉県教育活動の指針←重要！！！！

- ・読んで暗記するのではなく、理解することが必要。
- ・「生きる力」とは何かと聞かれたら、何と答えるか。
- ・確かな学力、豊かな心、健やかな体…「知・徳・体」のバランスがとれた人間。→学校教育の最終目標はこれに尽きる
- ・確かな学力とは。豊かな心とは。健やかな体とは。…自分で考えて答えをだそう。考えてもわからなければ何度も読み直す
- ・教員のバイブルである。何を勉強すればよいのか。教員として何をすればよいのか。
- ・裏面には、新みんなで取り組む「教育立県ちば」プランの抜粋あり。

(8) 志願の理由を書いてみよう (200字)

○いまから何か書こうか、では遅い！

- ①私は千葉県の子どもたちに「生きる力」を身に付けさせたい。
- ②「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、バランスのとれた生徒にしたい。
- ③講師として、学力の二極化を実感している。授業の充実に力を入れる。暗記の授業から自ら学び、思考し、表現する力を育成したい。そのために、主体的・対話的で深い学びを実現させる。

- ・これからの面接展開の材料となる（具体的に質問される）。
- ・大事なのは、今自分が学校現場で働いていて、何を感じ、何をしたいと考えているのか（③の部分）。二極化の場合、中間層に向けた授業はもっとも生徒が少ない層である。→「面接カード」しっかりと書く。

○自分が質問してほしいように、志願理由を組み立てる。

- ・面接は出会い、コミュニケーションの一環。
- ・試験官に、この受験生と面接をして「楽しかった」「会えてよかった」と思わすことができたならOK。…やはり「コミュニケーション能力」が問われている。

(9) 最後に…「採用選考突破に向けた心構え」

- ・かつて8回ほど受験をした教諭は、毎日退勤後、コーヒー店で23時まで勉強づめをしていた（4か月間）。
- ・それくらいしないとイケない。1次は甘くない。
- ・講師の強みは現場経験に尽きる。自分の思いを伝える。
- ・面接が楽しみだと思えるくらいの準備をする。

○グループ面接では結局のところ、コミュニケーション能力を見られている。

- ・グループにうまく溶け込んで、相手の意見を聞く、引き出す、自分の意見を言う。
- ・いまからでも鍛錬を。

○人を好きにならないと教員にはなれない。

- ・今の仕事を楽しんでいく。

○教科は学問、歴史がある。

- ・やみくもに問題集を解けばよいわけではない。
- ・いまこそ基本に立ち返る。
- ・教科書の配置はどうなっている。
- ・流れ・体系に沿って勉強していくことが一番の近道である。